

令和元年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文小学生の部
鹿児島県知事表彰 優秀賞

「自分は大丈夫だと思わないで」

鹿屋市立輝北小学校 6年 ^{ひろた}弘田 ^{あさひ}旭

今年の6月28日から7月4日にかけて記録的な大雨が西日本をおそいました。

鹿児島県でも、川のはんらんや土砂くずれ、さらには、建物がこわれるなどの被害が多くありました。私の家の近くでも、多くの所で土砂災害がありました。

今季から始まった「大雨・洪水警戒レベル」では、5段階中「4」となり、「全員ひ難」となりました。

私の家は高台にあり、周りに川やがけもなく、ひ難所までの道のりも遠いため、家にいた方が安全だと家族で判断し、ひ難所には行きませんでした。

私の父は、消防団に入っているため、地域住民に、ひ難の呼びかけで出て行って帰ってきません。家は停電で真っ暗になりました。

かい中電灯をつけて、母、兄、私と弟の4人で同じ部屋に集まり、カセットコンロを使って、お湯をわかしてミルクティーを飲みながら、父の帰りを待ちました。

夜の8時半頃に、ずぶぬれになった父がやっと帰ってきました。父は、そのまま発電機を回しに行きました。母も手伝いに行き、30分くらいで家に明かりがもどりました。やっと安心できました。

後日、ひ難していた友達から聞いた話では、ひ難所には食料や毛布もなく、自分たちで準備しないといけなかったそうです。お風呂にも入れずに大勢の中で寝るには、とても大変だったそうです。

ひ難所には、必要なものを準備しておく必要があると思いました。

また、ひ難を呼びかけていた父の話では、

「自分はひ難しなくても大丈夫。」

と言って、ひ難してくれない人もいたそうです。

今回の大雨で、ひ難所に行った人は1%にも満たなかったそうです。ひ難とは本来、身の安全を確保する行動をとるという意味で、全員がひ難所に行かなければならないという意味ではありません。自宅が安全なら、そのまま待機することもひ難になるということです。

しかし、残念ながら曾於市で、ひ難所に行かずに自宅待機していたお年寄りが、自宅裏の土砂くずれに巻き込まれて亡くなってしまいました。

私は今回の大雨で、ひ難所に行くべきなのかどうかを一人で判断せずに、周りの人たちの意見を聞いたり、テレビや防災無線等の情報をしっかりと聞いたりして、「自分は大丈夫。」と思わずに、「もしかしたら。」という危機感を持って、早めに行動していくことが大切だと思いました。